

被爆体験証言者と高校生との共同制作による「原爆の絵」



## 先生の支え

電話局で被爆した後、市の北の方へ逃げるため、橋が焼け落ちた京橋川を泳いで渡っているところ。生徒の中でも特に顔にひどい怪我を負っていた寺前さんの方を、担任の先生(画面中央右)が振り返って励ましている。

画面は寺前さん自身の見ていた視界として描いているが、当時寺前さんは怪我や疲労のせいで目が見えなくなりかけていたので、視界が狭まっていくことを表現するために、周りを暗くした。

被爆体験証言者 寺前 妙子(てらまえ たえこ)氏

絵の作者 楯田 みゆき(たてだ みゆき)氏(広島市立基町高校3年)